

新市誕生 10 周年記念事業



風穴分科会青年の市民参画グループ発表

題目 青年の市民参画

分科会メンバー

大畑 修之	米澤 國雄	池谷 俊裕	畑中 利博
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____

分科会の目的

平成25年度の百人会議の活動成果として提案した「青年議会～活力ある島田市の実現のために～」をより具体的なものにする。

●はじめに

その国の進運を図らんと欲すれば、その国の青年を見よ！との言葉があります。若者が元気なまちを、限りない発展をすることです。

島田市のまちづくりに「青年の限りないエネルギー」を発揮して欲しい、と願います。そのための手段、つまり、「青年の出番」をどのように設けるのかを課題とし、風穴分科会「青年の市民参画グループ」は取り組んでまいりました。

●仲間の実践に学ぼう

どこの“まち”にも若者がいます。いつの時代も若者の出番を期待してきました。

地域の中で発生したいわゆる青年団の前身は「鎌倉時代」に遡り、若者たちは、「若者宿」に寝泊まりし、共に励まし鍛えあい、一人前の人づくりを目指すと共に、その地域の祭りを司り、消防・警防等の社会活動を行い、住み良い地域づくりに邁進してきました。

社会環境の変化により、若者の姿が見えにくくなっておりませんが、島田市内に活動拠点を置く、二つの青年団体の活動を追ってみました。

●島田市青年サークルの活動視察

島田市青年サークルの主要事業の一つである、「元気キッズ田植え～2014～」を現地視察しました。

お揃いのユニフォームに身を包み、スタッフが参集し、やがて、親子の参加者が受付を済ませ、開会セレモニーの後、ラジオ体操をし、田んぼへ移動します。

現地へ到着し、田植えの説明を受け、われ先にと水の張られた田んぼへ入り、ヌルヌルとした土の感触を味わい、基準のひもに合わせ、一斉に田植えをスタートしました。

次代を担う少年・少女は原体験を通じ、多くの収穫を得ました。島田市青年サークルの「出番」を確認しました。

島田市青年サークル「元気キッズ田植え～2014～」 平成26年06月07日



●川根町青年団の活動視察

川根町青年団等が中心となり、毎年、島田市川根町の「天王山公園」で、野外ライブを中心とした「KAWANE夏祭り@BIG NATURE」が行われ、市内外から約700名余の若者が集います。

このイベントから、著名なアーティストも輩出されたとも伺います。飲食を伴う、開放的なイベントですが、スタッフは一切「アルコール」は口にせず、運営に全力を注ぎます。汗水流す準備のプロセスとやり遂げた時の達成感は青年を成長させます。

「青年は感動により成長する！」青年の、青年の手による、青年のためのイベントを、今後も見守りたいと思います。

川根町青年団「KAWANE夏祭り@BIG NATURE2014」 平成26年08月03日



●青年団体との懇談会とアンケート調査

金谷公民館みんくるにおいて、青年団体と当グループとの懇談会を開催し、併せて「アンケート調査」を実施しました。主役は、「川根町青年団」と「島田市青年サークル」です。

当日は、市教委社会教育課、県青年団連絡協議会、(財)県青少年会館にも同席願ひ、青年の生の声を聴いていただきました。

○アンケート調査から見えてくるもの

1. 活動スローガンとして、「仲間づくり」と「地域づくり」を掲げている
2. 現在の活動は、スケジュールが一杯であるが、「他団体との交流」等、新しい行事への取り組みを望んでいる
3. 「あなた方の活動を住民はどのように感じていると思いますか？」の設問に対し、「地域のためによく頑張っている！」と回答しており、自信と誇りを持っている
4. 市教委等の行政機関との関係については、青年団体の性格・主体性を尊重しつつ、「力を貸してほしい！」と望んでいる

青年団体との懇談会 平成27年02月12日



●青年団体とのワークショップ

金谷公民館みんくるにおいて、青年団体と当グループとの第2回目の話し合いの機会を設けました。

アンケート調査結果の報告の後、

- ① 市内青年への「仲間づくり」の輪を広げるには、どのようにしたらよいか？
- ② 若者の手による「まちづくり」は、どのように進めたらよいか？

の二つのテーマに沿って、忌憚のない意見交換をしました。具体的には、テーマ毎にポストイットに「意見」を書き込み、ホワイトボードに貼り付け、分類していくワークショップ方式で実施しました。

○ワークショップで出された青年たちの意見

・市内青年への「仲間づくり」の輪を広げるには、どのようにしたらよいか？

- ① 他団体との交流
- ② 若者同士の交流
- ③ 時代に即した情報発信(ホームページなど)

・若者の手による「まちづくり」は、どのように進めたらよいか？

- ① 若者の意見を伝える場を設ける
- ② 地域や行政との連携
- ③ 他地域の「まちづくり」から学ぶ

青年団体とのワークショップ 平成27年03月11日





●活動まとめ

青年との触れ合いを通して、以下の3つを強く感じました。

- ① 青年期において、豊かな人間性を培う要件として、「職業や年齢を乗り越えた青年同士による団体活動」が必要であること
- ② 「まちづくり」には、市民と行政との「協働(パートナーシップ活動)」が必要であること
- ③ 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことに伴い、青年期には、「政治学習」が必要であること

●事業の提案(1)

(事業名)

青年議会による政治学習の実践

(内容)

青年代表と市中堅職員の協働による「模擬議会」を企画・実行する

(ねらい)

- ・ 市政の仕組みと議会活動を理解し、市政への関心を深めるとともに、青年の視点を「まちづくり」に反映させ、「市民主役のまちづくり」を推進する
- ・ 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを踏まえて、若者の政治学習を進める一助とする

●事業の提案(2)

(事業名)

青年による「青年の翼事業」の企画運営

(内容)

公募による実行委員と行政の協働による、富士山静岡空港を発着とする「青年の翼事業」を企画・実行する

※半ば公で企画された事業ではなく、実行委員主体による自主運営を基本とする。

(ねらい)

豊かな人間性を培い、現地青年団体との交流及び視察等を通して改めて郷土「島田市」を見直し、地域づくりへの意識を高めるとともに、次代を担うリーダーを養成する

●むすび

島田市のまちづくりに「若者の限りないエネルギー」を発揮して欲しい、と願います。その為の手段、つまり、「若者の出番」をどのように設けるのかを課題とし、当グループは取り組んできました。

青年の市民参画を実現する手段として、二つの事業の提案をしました。

これは、ひとつのモデルであり、究極的には、島田市内の各地域において、年長者の支援の下、具体的な青年活動が営まれ、「自分たちの地域は自分たちの手で創りあげる！」とのエネルギーを存分に発揮することを期待するとともに、我々もその実現に向けて取り組んでいきたいと思えます。